或る新労組合員仲間の意見

――いっしょに歩くためにのぞむこと

会社と新労幹部によって、本音を言わない労働者が作りあげられているのが、今の現実です。組合員がうっぷんを晴らす場がなくなるように追い込んでいながら、「民主的にやっている」と幹部は言うが。

会社はあらゆる場で、労働者の競争意識をあおり立てることを前面に出してきているのですが、これが一番危険だと思うのです。

主席は、職場対抗ボーリング大会や、社宅内のバレー、ソフトボールなどの試合を出勤向上と結びつけてきているし、いつの間にかその競争をそのまま職場の競争にもってきている。損をして得せようというのが、会社の徹している態度ですよ。

出勤報償として、千円の金券。いまどきどこにも通用しない金券など、明治時代のあの納屋制度に見られた金券ではないですか。まさに、明治以来の労務政策が今も使われているとですよ。

保安カードの問題一つとってみても、会社は一枚に五円を出さねばならず、ここで損をしていながら、ほかのところで大きい得をとるわけです。労働者を、本音をいわない人間にかえて。本当は、会社が何を考えてこのようなことをやっているのか、ということを正しく見る目が大切ですよ。

三池労組も、これまでのカラーを脱皮しなければならないのではないですか。

今後は闘いの結果を見ることより、闘い方を中心に考えてほしいですよ。強がりだけでは、多数である新労組を動かすことはできず、会社の方が新しい芽を作るために、若い者を徹底して飲ませ、食わせ、楽しませ、そして教育して、それを組合幹部の手にまかせてゆく、そんなことをやっているのです。そのうちに、ものを言わない組合員が作られてゆく。

会社は十分先を見ながら、先を見ることを知らない組合員を巧みに利用して、働かせているとですよ。三池労組は、〝大三池炭鉱労働組合意識〟の看板をおろし、肩いからした運動としてでなく、新しい自分たち三池炭鉱労働者のまとまった姿を作り出してゆくことこそ、新しい年の一番大きな課題ではないでしょうか。

×

右は、ある組合員から寄せられた聞き書きを整理したものです。

こんど、ある新労組員仲間から一つの意見が寄せられました。新しい年の闘いに踏み出してゆく私たちに、限りない教訓ともなっています。感謝の意をこめ、ここに紹介いたします。

いやというほど、むなしさだけを思い知らされますよ。

それには全部をさらけ出して渦の中にはいってゆく。どんなにその渦が大きかっても、その中にこそ新しい芽が生れ、その芽が次の年には背を伸ばしてゆく。今、返って会社の方が新しい芽を作るために、若い者を徹底して飲ませ、食わせ、楽しませ、そして教育して、それを組合幹部の手にまかせてゆく、そんなことをやっているのです。そのうちに、ものを言わない組合員が作られてゆく。

会社は十分先を見ながら、先を見ることを知らない組合員を巧みに利用して、働かせているとですよ。三池労組は、〝大三池炭鉱労働組合意識〟の看板をおろし、肩いからした運動としてでなく、新しい自分たち三池炭鉱労働者のまとまった姿を作り出してゆくことこそ、新しい年の一番大きな課題ではないでしょうか。

×

右は、ある組合員から寄せられた聞き書きを整理したものです。

各職場からの参加を

オルグ活動は闘いの一つ

猿渡孝良さんのCOオルグ日記

これは三川指導部の猿渡孝良さん（もと宮浦指導部）の、COオルグ活動日記です。昨年の十月三日の夕方本部を車で出発、長野―石川―福井の三県下を広くかけめぐり、十一月二日に帰山しました。COオルグとはどんなものなのか、何はともあれ次の日記をぜひご一読ください。

四　日　長野県評へ。オルグは二交替で行うことをきめ、一人は続けて地区労での交流へ。

五　日　長野地区労へ。長野市長選前。映画（三池の闘い。以下同）上映と交流。CO闘争の意義を訴える。

六　日　右と同じ。

七　日　上小地区評。上田市長選前。（前期に六十票差で敗れたよし）選挙準備中の市職労中心にCO闘争の意義訴える。前後して各単産でも。

八　日　須高。リンゴ作りも自然が忘れかけられている。木を大切にするのはよいが、果実を早くちぎり染めている。

十一日　佐久。若い労働者が多い企業だったが、今後は退職金を問題にしてゆくと。配転合理化で若い人が退めてゆき、首切りにつながるのだ。

十二日　諏訪。職業病が多発し問題となっている。タイムカードで、職場規律を強化していた。

十三日　上伊那。コンピューター導入で転職を多く出している企業があり、欠員補充の闘いが取り組まれていた。また、チェンソー使用から腰痛病発病。公傷認定の闘いをしているところがあった。

中小企業が多いが、組織づくりをすすめ、官民一体の闘いが課題とされていた。

松本電鉄も分裂していたが「三池もがんばってください」と。交流で、映画を上映。

十四日　下伊那。頸肩腕障害補償の闘い。当局は「家庭の仕事からだ」というなど、厳しい長期闘争。合理化攻撃が加えられている全国金属。「全金を脱退すれば」と会社。

交流と映画上映。〝みいけの闘い〟は多くの人に見せたい。

十七日　木曽、塩尻。小さな地区評でも書記さんががんばっている。

十八日　松本。交流と映画の上映。年代の相違を見る。三池闘争は生れた頃、という人あり。資本が三池闘争から学んで活用していると。

十九日　大北。全林野の仲間が黒部ダムに案内してくれた。

二十一日　石川県七鹿地区労へ。全港湾労組、人員整理の攻撃を、三十五日ストでハネ返していた。

期末闘争でまた会社の攻撃。それに備え体制づくり中だった。

火力発電所建設反対の座り込みや、国際反戦デー・秋闘勝利決起集会に参加。CO闘争への支持を訴える。交流、映画上映。

二十二日　原子力発電所建設反対の闘い。放射性物質の安全性への不安が広がっていた。とくに再処理工場の汚染の恐れに対する不安強く、反対の空気強し。

二十四日　金沢へ。単組をたずね、執行委員会、職場集会などでCO闘争への支持を訴える。映画も上映したが、三池の闘いにみんなの理解強く、取り組みやすかった。

二十六日　小松・加賀。右同

二十七日　福井の中部。「物販もよいが、カンパも取り扱ってはどうか。患者の状態は。組織状態は。裁判闘争は……」などの質問うれし。

二十八日　福井へ。「還元金なんて。それはカンパだ」の声。「物販より、カンパの訴えこそやるべきだ」とも……。

交流と映画上映。なしくずし合理化攻撃にどう対決するか、という問題への理解を求められていることを知る。

二十九日　全鉱中竜鉱山労組へ。執行部と交流し、社宅で映画上映と交流。

亜鉛鉱山を見る。坑内からベルトに乗って運ばれてくる鉱石は、三段階で粉砕され、機械で選別されて製品となる。

労働者は入坑後繰り込みを受け作業衣に着換えて現場へ。岩盤が固いので、マイトは一方で一回のよし。枠張りもしない。ダンプやジープが坑内の迷路を走り回り、三池では考えられぬことだ。

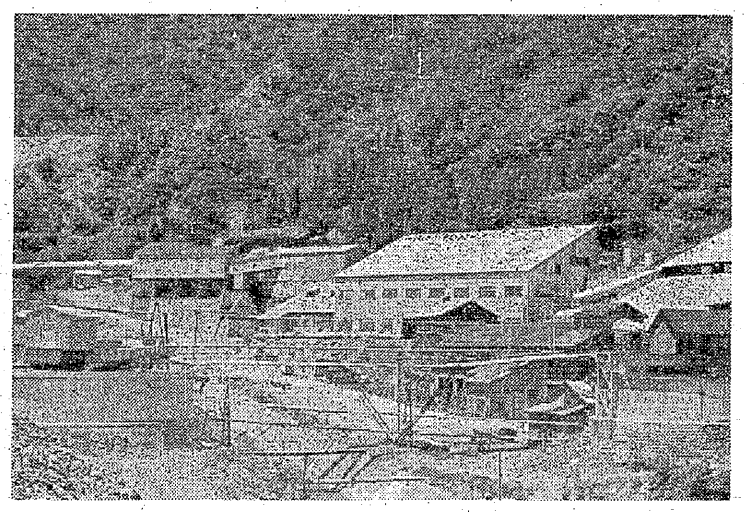
休憩は、食堂（坑内に設けられている）で一斉に一時間。食事後は囲碁、将棋に、レコードを聞きながらの休息。

お湯で体を洗って昇外。社宅は水洗便所。炭鉱離職者が、九州・北海道からきて働いているようすがうかがえた。

三十一日　若狭、敦賀。若狭湾で原子力発電所問題が起きている。「がんばって下さい」と、カンパを頂く。

×

また、厳しい状況の中ながら、各職場から一人ひとりがこのCOオルグ活動に参加して、三池の展望を切り開くための一つの闘いだとして、がんばってもらいたいことを付言する。



亜鉛を採掘している中竜鉱山。亜鉛と石炭の違いこそあれ、地下産業という点ではまったく同じ。それが労働条件は月とスッポン。

ビンに集まった小銭、闘争資金に……

千葉　平井建一

三池労組の皆さん、そして三池主婦会の皆さん、私は社青同で、流山の支部長をやっている平井といいます。七三年と七五年と二回にわたって、三池にまなぶ全国集会に参加しました。親身になってお世話頂き、本当にありがとうございました。

同封のお金について話すと長くなりますが。

ヒョンな事で、ちょっと大きなビンを手に入れました。どう使うか考えた末、小銭を入れることにしました。一日、最低百円は入れるようにして、一円玉や五円玉など、職場の人にもずうずうしくもらいに行くなどして、貯めていきました。

仲々ビンに一杯にならないので毎月の賃金受取り日に、「小銭をくれ」、と歩き回りました。

初めのうちは職場の仲間から、「良くあんな事ができるな」「守銭奴だ」などとかいわれました。

一年たちますと、小銭がビンの七分目の所まで入り、年も迫ってきたので労金の人に依頼して、両替してもらいました。

その時、職場の仲間から「そのお金はどうするんだ」と聞かれたのです。「三池労組に送る」、といいました。皆は、感心したようでした。

実はお金をビンに集め始めた頃は、とにかくビンに一杯にしようというほかは何も考えずに入れていました。しかし、ずうずうしく小銭を仲間からもらい歩き続けていくうちに、これは自分だけのお金ではないぞ、という感じになってきたので、ではどうつかうべきかを考えていた矢先、仲間の話からとっさに「三池労組」という名前がでてきたのです。何はともあれこのお金を、CO患者を守る会運動につかってくださればさいわいです。

これからは毎月の賃金受取り日には、「CO闘争にカンパ願います」とハッキリ言って、小銭を集め続けていく考えです。

今では同盟の仲間は何もいわずに、「ハイッ。カンパだ」と五十円、百円と渡してくれます。

三池の炎を流山に広めるためにこれから頑張っていきます。

三池の仲間の皆さん、寒さも一段と厳しくなるでしょうが、身体を大切にしながら一緒に闘っていきましょう。

×

平井さんは、「千葉県流山市平和台四―一六〇二」にお住いで、同市の盛進製薬労働組合の活動家だそうです。暖い連帯にこたえるためにもがんばりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。ともにがんばりましょう。

なおご芳志のカンパは、闘争資金に使わせていただきますので、お力添えくださった皆さんにくれぐれもよろしくお伝え下さい。

心ばかりですが……

土路生ご夫妻からカンパ

このほど、「大阪府交野市私部二〇七〇―六―二〇四」にお住まいの山根房光さんから、お便りが寄せられました。

山根さんは知られている通り三池炭鉱離職者で、ただいま大阪高速印刷会社に働いていられますがお便りには、CO守る会費とともに土路生（とろぶ）幹夫さんと同幸子さんのご夫妻から、三池労組へと寄せられたCOカンパが同封されていました。

土路生さんご夫妻はご芳志を山根さんに託されたものですが、ご夫妻は山根さん宛のお手紙に述べられています。

「大変おそくなりましたが、本日（十二月十二日）、昭和五十三年度分CO守る会会費と、心ばかりのカンパをお送りいたしますのでよろしくお願いいたします。会費二、五〇〇円。カンパ一〇、〇〇〇円。……」

山根さんはそのお便りに、次のように書いて下さっています。

「土路生幹夫・幸子さんご夫妻の、いつに変らぬ心のこもった、年末のCO患者・遺族の皆様への暖いカンパ、喜んで受納致しましたので同報させて頂きました」

土路生さんご夫妻のこのような暖い連帯は、ここ数年続いていることで、感謝の言葉もありません。何はさておき、いっそう団結を固めて闘うことをお誓いして、お礼にかえさせていただきます。

×

東京都高教組三池CO守る会からも、師走に多額のカンパをわざわざお送りいただきました。

そのほかにも、各団体、各個人からも同じようなご芳志が組合に寄せられております。私たちは暖い連帯にこたえるためにも、今後とも団結を固め闘ってゆくことを決意しております。その旨記して感謝にかえさせていただきます。